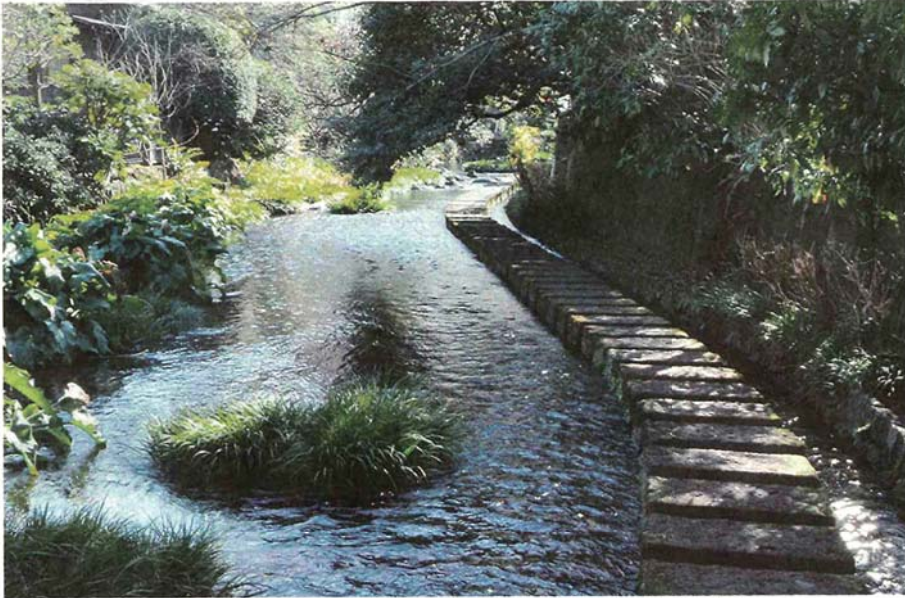


三島のシンボル源兵衛川

「世界水遺産」に登録内定

三島市中心部を流れる源兵衛川が、民間シンクタンク「世界水会議」(本部・フランス)が主催する「世界水遺産」に登録されることとが内定した。同市のNPO法人「グラウンドワーク三島」が十六日、



世界水遺産の登録が内定した源兵衛川＝三島市内で

明らかにした。三月にブラジルの首都ブラジリアで開かれる「世界水フォーラム」で表彰を受ける。日本では、源兵衛川のほかに、新潟県の関川水系土地改良区が内定しているという。

「世界水遺産」は、世界水会議が二〇一六年の創立二十周年を記念し、国際機関「国際かんがい排水委員会」(本部・インド)と協力して創設した顕彰制度で、今回初めて登録が行われる。自然環境が共生してきた水管理の仕組みが対象で、百年以上の歴史や地域コミュニティの知恵や努力でつくられたものであることなどが条件となっている。

源兵衛川は、GW三島と中郷用土地改良区の連名で申請。源兵衛川は、室町

時代後期に築造された全長一・五キロのかんがい用水路で、「水の都・三島」のシンボル。高度経済成長期には企業が地下水をくみ上げたのが原因でわき水が激減し、汚染されたが、一九九〇年代に親水公園として整備され、市民らが一体となつて美しい水辺環境を再生したことで知られる。歴史や地域を挙げた取り組みが評価されたとみられる。

GW三島専務理事の渡辺豊博さん(66)は「三島の宝が世界の宝にランクアップした証し。三島の豊かな水と緑の環境を生かした街づくりの手法が世界からも先駆的と評価された」と喜び、「今後も世界の宝に恥じない革新的な街づくりに挑戦したい」と意気込む。

(佐久間博康)

市民らの再生評価